

ロス・カレッジ 2 DAY セミナー

本年度エスビューローでは、小児がんで子どもを失くした家族が、その深い悲しみを乗り越えることを目的に、相互啓発型のコミュニティ活動を「ロス・カレッジ」と称し、通年で実施する予定です。その皮切りに今回の「2DAY セミナー」を企画しました。2日間でもっと学び、語り合い、交流して下さい。人生のきっかけ—それは誰かとの出会いなのか、何かヒントになる言葉なのか分かりませんが、このセミナーがひとつの契機となりますよう皆さまの参加をお待ちしております。

8月10日(金) 14:00～17:00「22階D会議室」

昨年小児がんのため子どもを喪失した12人に林美鈴さん(当時大学院2年生)がインタビューしました。闘病の手記を本に出版した人、ホームページを立ち上げた人、小児医療に関わって生きる道を選んだ人、葬儀や法要の矛盾に悩む人など「その後の人生をどうおくれたのか」について様々なドラマが語られました。そして林さんがそれを整理するなかでひとつの共通するものが浮かび上がってきました。林さんからそれを皆さんにお伝えしたのち、会場の皆さんとともに意見交換し、分かち合い、振り返ってみたいと思います。

発表

『12人の喪失家族のインタビューから見えてきたもの』

発表者 林 美鈴 (たちメンタルクリニック心理スタッフ)

セッション

トピック1 子どもが生きていた証を残す

トピック2 小児がんにかかわって生きる

トピック3 葬儀、法要のあり方を考える

ファシリテーター 安道 照子 (NPO 法人エスビューロー 代表理事)

長澤 正敏 (NPO 法人エスビューロー 事務局長)

キーワード: 『対象喪失』『悲嘆』『生きた証』『意味の再構築』『闘病仲間』『医療者との関係』『葬儀、納骨、法要』

トピック1

子どもが生きていた証を残す

子どもを失くされた家族のその後の人生は様々です。しかしながらその多くの方が「子どもの生きていた証」を残したいと考え、また実際に行動に移されています。闘病記を本にして出版した方、ホームページやブログを立ち上げた方などを紹介し「生きていた証を残す」という活動の意味について考えます。



トピック2

小児がんに関わって生きる

子どもが亡くなるという形で病院を出ると、突然に小児がんや医療、病院などと全く無縁の世界に戻ることになります。しかし、すでに自分は「人生によって変えられた」のであり、元の世界に以前のように戻ることはできません。そのように感じた方の多くがその後の人生を小児がんに関わって生きておられます。



トピック3

葬儀、法要のあり方を考える

これまで3回のワークショップでいつも聞かれたのが葬儀や法要への不満、納骨やしきたりへの疑問です。地縁や血縁という絆が希薄化する近年、慣習的な葬儀、法要が子どもの喪失の場面では「むしろ遺族のストレスとなっているのではないか」という問題について意見を交わしたいと思います。



第5回 小児がん・脳腫瘍全国大会内プログラム

(主催) 特定非営利活動法人 エスビューロー

8月10日(金)・11日(土)・12日(日)

梅田スカイビル タワーウェスト 36階「スペース36」

JR「大阪駅」、地下鉄「梅田駅」、阪急「梅田駅」より徒歩9分。阪神「梅田駅」より徒歩13分。〒531-6023 大阪市北区大淀中1-1 <http://www.skybldg.co.jp/skybldg/>

8月11日(土) 10:30～12:30「スペース36(L)」

『今なぜ、ロス・カレッジか?』 安道 照子 (NPO 法人エスビューロー 代表理事)

小児がんで子どもを亡くした親の多くは病院を出ると入院中のような相談支援体制はなくなります。また闘病仲間同士が励まし合う関係も途絶えて行き、その深い悲しみを一人で背負わねばならない気がするものです。このような家族が支え合い、学び合う仕組み、ロス・カレッジを提案します。

『碑文谷さんと考えよう! 葬儀の原点とグリーンワーク』

ひもんや はじめ
碑文谷 創 (葬送ジャーナリスト)

「死者のいのちの尊厳」や「遺族の心の痛み」に配慮することは葬儀の原点です。それに対して「お清め」の塩や「通夜振る舞い」の酒などは、死に対する恐怖心、死穢への対抗手段が儀礼や風習の中に残存しているものなのです。

そうした風習を意味も考えずに踏襲することによって、むしろ葬儀の原点が蔑ろにされていないでしょうか?

グリーンワークであるべき葬儀がむしろ遺族にとってストレスとなる。この大きな矛盾、そして子どもの葬儀や供養のあるべき姿について葬送ジャーナリストの碑文谷創さんをお招きし、皆さんと考えたいと思います。



ひもんや はじめ
碑文谷 創 (葬送ジャーナリスト)

1946年、岩手県に生まれる。葬送ジャーナリスト。出版社勤務を経て、1990年表現文化社を設立。雑誌「SOGI」の編集長を務めたかわら、死や葬送関係に関する評論活動をテレビ・新聞・雑誌などで展開。著書には「死に方を忘れた日本人」(大東出版社)、「お葬式はなぜするの」(講談社)等がある。

喪失家族交流夕食会のご案内 (当事者のみ/会費 2,800円)

8月10日(金) 17:30～19:30
空中庭園(39階)「中国料理 燦宮」

地上160メートルという絶好のロケーションで、本場の広東料理を頂くという非日常を共有しませんか? 同じ思いをした母親同志だからこそ、気さくに、気楽に話せることがあると思います。参加をお待ちしております。(夕食会のみ参加希望の方はご相談下さい)



お問い合わせ・お申込みは……

- 参加ご希望の方は、別紙全国大会参加申し込み書 (HPからプリントアウトもできます) に必要事項を記入頂き郵送あるいはパソコンより添付ファイルにてお申込みください。(メールで申し込まれた方のみ1週間以内を目途に拝受の返信をさせていただきます。返信のない場合は再送信もしくは電話等にて確認をお願い致します) 尚、ご提供いただいた個人情報、提供された目的以外に利用(開示)することは一切ありません。
- FAXでの送信も受付いたしますが、インクトラブルや受信トラブルがある事が多いので念のため送信後に確認の電話(留守電でも可)を入れてください。
- 申し込みは8月8日(水)までとさせていただきます。席に限りがございますので、なるべく事前にお申し込みください。特に8月10日は会場が小さいため満席が予想されます。座席の確保は先着順とさせていただきます。どうぞご了承ください。



特定非営利活動法人 エスビューロー
〒567-0047 茨木市美穂ヶ丘3番6号 第一山本ビル403号
Tel & FAX 072-622-6730
E-mail: esbureau@hcn.zaq.ne.jp
http://www.es-bureau.org/



第5回 小児がん・脳腫瘍全国大会内プログラム (主催) 特定非営利活動法人 エスビューロー

8月10日(金)・11日(土)・12日(日) 梅田スカイビル タワーウェスト36階「スペース36」

JR「大阪駅」、地下鉄「梅田駅」、阪急「梅田駅」より徒歩9分。阪神「梅田駅」より徒歩13分。〒531-6023 大阪市北区大淀中1-1 http://www.skybldg.co.jp/skybldg/